

令和6年度 地区小・中学校教育課程研究会 提案資料

部会名 音楽

令和6年度県央地区小・中学校教育課程研究会研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ 「歌唱表現を通して、表現する楽しさに気づき、自己肯定感を育む指導」

～思いや意図をもって表現する力の育成を通して～

地区名 県央地区

所属校 座間市立栗原小学校

名前 尾方 けい

※児童の写真・ワークシート等の記述及び作品等については、すべて提案資料への掲載の許諾を得ています。

I はじめに

昨年度、担任していた4年生は、入学時にコロナ禍を経験し、多くの学校行事や活動が制限された中で、学校生活を送ってきた。音楽科の授業では、活動の際にマスクを着用し、短時間、少人数で合唱や器楽演奏を行ってきた。コロナ禍前までは、式典の際に上級生の歌声を聞いたり、体育館で皆で校歌を歌ったりしたが、その経験がない。リモートでの行事が多く、皆で思いきり声を出して歌う経験が少なかった。

毎年、座間市では、ハーモニーホール座間(座間市立市民文化会館)にて、市内小学校の4年生が学校ごとに合唱を披露する連合音楽会を伝統的に行っている。昨年度の4年生は、新型コロナウイルス感染症の影響により、4年ぶりに連合音楽会で合唱をすることになった。4年生の教科書教材では、2部合唱の曲が掲載されており、歌唱パートを分けての取り組みも初めて行う。

アフターコロナの時代、児童が自分を表現する楽しさや友だちと声を合わせる楽しさを感じてほしいと思い、歌唱指導を研究題材として、本研究を行った。

平成29年7月に告示された学習指導要領で、3・4年生の目標は、下記と明記されている。これらを踏まえて研究を行っていく。

小学校学習指導要領 音楽

第3学年及び第4学年の目標と内容

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

II 研究内容

1 テーマと研究仮説

**テーマ「歌唱表現を通して、表現する楽しさに気づき、自己肯定感を育む指導」
～思いや意図をもって表現する力の育成を通して～**

研究仮説

児童が思いや意図をもって表現する(意識化する)活動を通して、自分が考えていた表現ができたとき、仲間とともに表現する楽しさに気づき、自己肯定感を育むことができるのではないか。

6月に、児童アンケートをとったところ、歌うことは好きだが、自分を表現することに苦手意識をもっていると感じた。そこで、音楽の授業で、歌唱表現することの意味を考えた。

私は、授業で歌唱表現を行う際に、ただ上手に歌えればよいのではなく、「自分はこう歌いたい」という思いをもって歌うことを大切にしたいと思っている。なぜなら、自分事として考えることで、音楽を身近に感じることができ、さらに曲に対する考えをみんなで伝え合うことで、自分にはない様々な考えを知ることができ、音楽をより楽しむことができると思うからである。

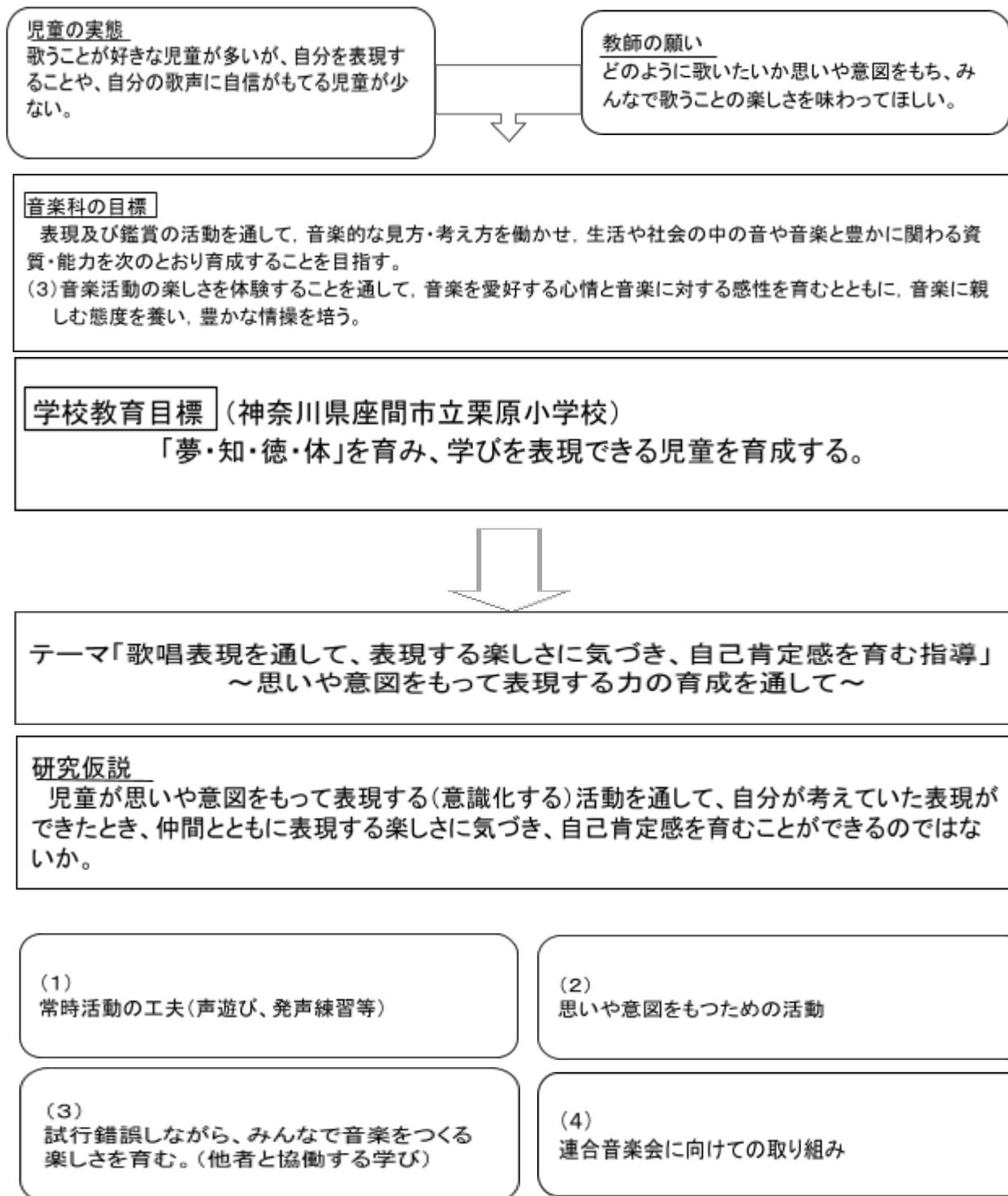
歌唱表現は、一人ひとりが工夫して歌う歌い方と、合唱で、みんなで声を合わせて歌う歌い方がある。今回は、音楽の授業と連合音楽会の行事を通して、それぞれのよさを体験させたい。

歌に対する思いを持ち、どのように歌うかを考えるために、声にはどのような表現ができるのかを経験しておく必要がある。また、楽譜から歌唱表現に必要な読み取りや、歌詞に込められている思いを読み取るためには、音楽的な知識をもっていなければならない。小学校学習指導要領解説音楽編のP60には、「[共通事項]との関連を図り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら、曲想と音楽の構造や、曲想と歌詞との関わりについて、児童が自ら気付くように指導を工夫することが重要である。」と記されている。音楽の感じ方は人それぞれ異なるが、音楽的な根拠をもとに、自分はこう歌いたいという思いを持たせられるようにしたい。

曲に対する思いや意図をもつ際には、自分でどのように歌うのかを考える時間と、友だちと協働で学び合う時間を大切にしていきたい。

筑波大学附属小学校教諭である高倉弘光は、『たとえば、音楽づくりも、子どもならではの感覚を活かして音楽をつくったり、それを通して、「僕が何かを生み出すことができるんだ。僕ってすごいんだ」って自信をもったりする機会でもある。』（「音楽の授業で大切なこと～なぜ学ぶのか？何を、どのように学ぶのか？」より）と述べているように、私も児童が工夫した表現を互いに聴き合い、みんなで曲に合った歌い方を考えることを通して、それを表現できたときに、自分に自信をもてると考える。そして、その先に「自分の声は低い声だけれど、ソプラノを支える声だから好き」などと、人と違う自分の声のよさについても実感させたい。試行錯誤しながら、表現していく過程の中で自己肯定感を育み、自分自身を好きになってほしいと願っている。これらの考えから、研究仮説を設定した。

2 研究構想図



3 指導の工夫

(1) 常時活動の工夫(声遊び・発声練習等)

①歌った曲リストの作成

日本の歌や季節の歌など、色々な歌に親んでもらいたいという思いから、音楽の授業の導入として、歌唱本「歌はともだち」から、毎月2曲ずつ今月の歌を選んで歌った。歌うごとに音楽ファイルに記入していき、知っている歌のバリエーションを増やしていった。歌を通して、音楽記号(クレシェンドやリピート)など、自然と児童が触れるようにしたことで、次にその記号に出会った際には、以前歌った歌い方を生かせるようにした。

②声遊び

声の表現方法の広がりを持たせるために、授業の導入の5～10分間、声遊びをした。児童は楽しみながら取り組んでいたが、声を高くする場面では、コントロールが難しい児童もおり、思いきり声を出している児童もいたので、相手と合わせることの良さが実感できるよう言葉かけを行った。活動によっては、次の活動へ移る前に盛り上がりすぎないように配慮し、声の調整の仕方も学びとして大切にしたい。

(例)活動とねらい

・ボールに合わせて

→声を上下に動かして遊ぶ活動、黒板に描かれた1本の線に合わせて声を上下させる。線を2本にし、2つのパートに分かれて行うことで、声の重なりを味わわせる。

・あっち向いてアー

→声を上下に動かして遊ぶ活動。「あっち向いてホイ」の遊びのように、ペアになり、一人が指さす方向につられないようにして、もう一方が高い声か低い声で「アー」を言う。自分の声の高さをコントロールする力を育てる。

・蚊がとんできたぞ

→いろいろな声色で遊ぶ活動。蚊になったつもりでハミングしながら歩き回る。歌うことに苦手意識をもっている子でもあまり抵抗を感じないで声を出せるようにする。

③発声練習

どこを意識して行くかポイントを伝え、意識して声を出す練習をした。地声と裏声の使い分けとして、手を上げたら裏声にするなど、ゲーム感覚で歌い方を分ける練習も行い、楽しみながら行うことができた。

(例)

・おなかの体操(腹式呼吸の練習)

・あえいうえおあお(はっきり声を出す活舌練習)

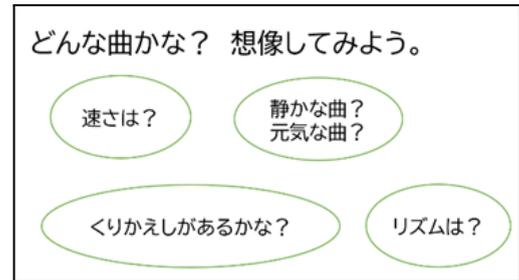
・ブレスの練習

(2) 思いや意図をもつための活動

～「まきばの朝」(文部省唱歌 船橋栄吉 作曲)の
実践から～

①歌との出会いを大切にす。

「まきばの朝」の歌を歌う際に、最初は、パワーポイントで、歌に出てくる風景の写真を何枚か見せ、どここの場所の歌なのかを想像させた。鐘の写真が出てきたときに、児童は、「教会に鐘があるから、結婚式の歌なのかな？」などと予想していた。その後、歌詞を紹介し、どんな曲なのか(曲想、速さ、繰り返しがあるかなど)を予想させることで、早く曲を聞きたいという思いや期待をもたせることができた。「予想よりも速い曲やリズムにのれて楽しい曲」と感想を伝え合った。歌詞が載っているプリントを配付し、朝の時間帯がわかる歌詞の言葉を探させたり、自分たちの朝を感じる音と牧場の朝の音が異なることに気づかせたりした。

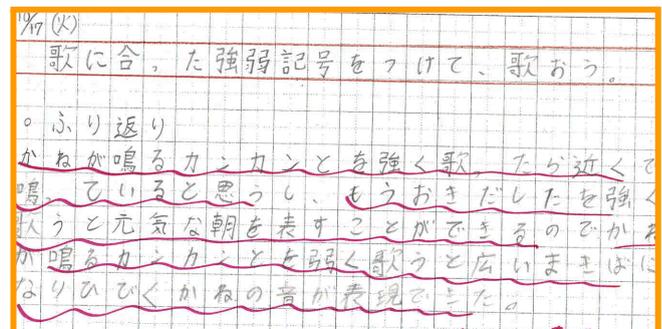


②発問・指示の工夫

「まきばの朝」では、曲想を生かして表現することを目標にした。この後の教材で、強弱記号であるクレシェンド、デクレシェンドを学習する。そこで、今回は、「自分たちで歌に合った強弱記号をつけて、歌おう」という課題にした。

「エーデルワイス」や「ラバース コンチェルト」の歌唱活動では、「どのように歌いますか。」という発問にしたが、曲想をもとに、歌い方のイメージで考えており、何を工夫するのかがわかりにくいと感じた児童もいた。そこで、強弱記号に絞って発問をしたことで、「朝の時間の移り変わりを表している曲だから、始めはmp(メゾピアノ 少し弱く)だけれど、だんだん日が昇るからクレシェンドをつけた。」や、「最後の鐘がな～る な～る～のところは、遠くに響いているから、だんだんデクレシェンドにした。」と意図をもって工夫して歌ったことがわかる。

〈「まきばの朝」の児童の振り返り〉



(3) 試行錯誤しながら、みんなで音楽をつくる楽しさを育む。

(他者と協働する学び)

①付箋紙を活用し、歌い方の工夫を視覚化する。

拡大楽譜を用い、付箋紙に強弱記号を書き込ませ、なぜそう思ったのか理由を話し合わせた。旋律の上がり下がり意識して強弱に表したり、歌詞の言葉から考えたりしていた。付箋紙は自分たちの考えを動かしやすく、話し合いに効果的であった。しかし、グループで話し合う前にはある程度、歌う経験をしていないと、リズムをとりながら歌うことができず、範唱CDを流しながら、話し合う時間を設けた。話し合いの前には、授業で歌う経験を重ねて、歌に慣れていく必要があると感じた。

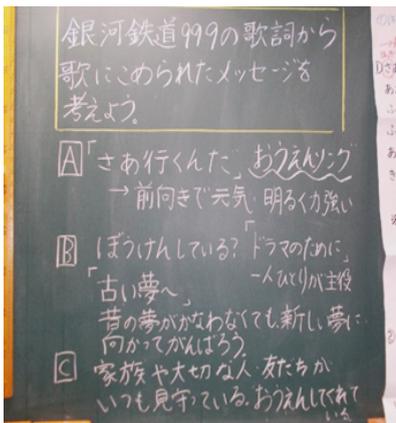
ICTを活用した学び

・共同編集のツールを活用して

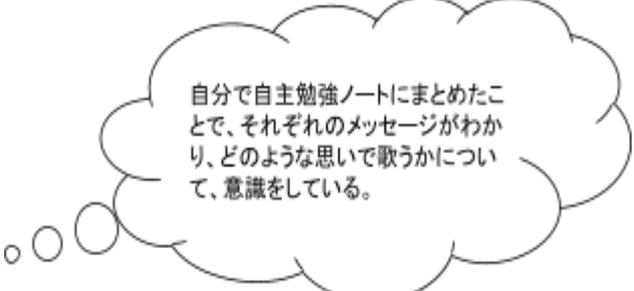
～連合音楽会「銀河鉄道999」の歌の実践～

(奈良橋陽子・山川啓介 作詞、タケカワユキヒデ 作曲)

授業では、「銀河鉄道999」の歌詞から、歌のメッセージを考える活動を行なった。



行った。Aメロディを1・2班、Bメロディを3・4班、Cメロディを5・6班のように各班で歌詞を分担し、共同編集ツールに、どんなメッセージが込められているか、どのように歌うかについて、付箋紙で意見をを出させた。初めての活動だったため、操作することに時間がかかり、作ったデータが消えてしまうなどのアクシデントや、課題に対して理解できておらず、歌詞の意味ではなく、発声方法について書いている班もあった。話し合いより、入力することが中心になってしまった。共同編集ツールは、他の班の考えを知ることができ、操作に慣れれば、活用しやすい。しかし、自分の考えを伝える、話し合う部分を大事にしたいので、ねらいによって活用方法は検討した方がよいと学んだ。授業後の自主勉強ノートに、歌のメッセージについて自分なりに分析し、まとめた児童もいた。



6月に児童アンケートをとると、「自分の歌声がわからない、集中して歌っているのに、友だちの音が聴き取れない。」という意見があり、学習用端末で歌声を録画し、客観的に歌の振り返りができるようにさせた。練習前後で録画したものを見ることで、学習のポイントを意識して歌唱を行う児童が増えてきた。一人ひとりの歌への意識をより高めるために、自分で練習しているときの様子を録画したことで、声の大きさや音程、休符への意識など曲想に合っているかどうかを客観的に振り返る機会になった。



(4) 連合音楽会に向けての取り組み

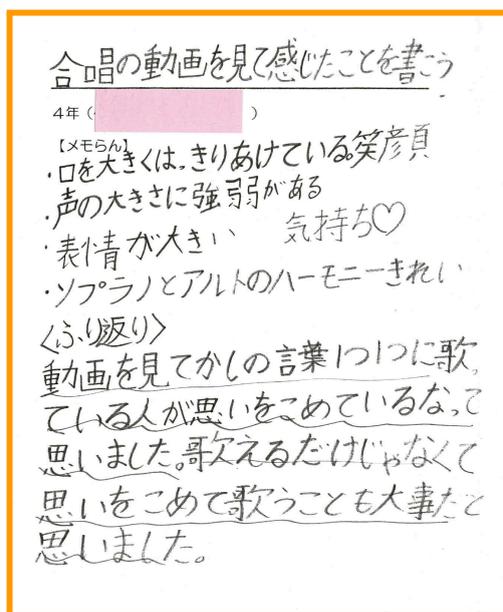
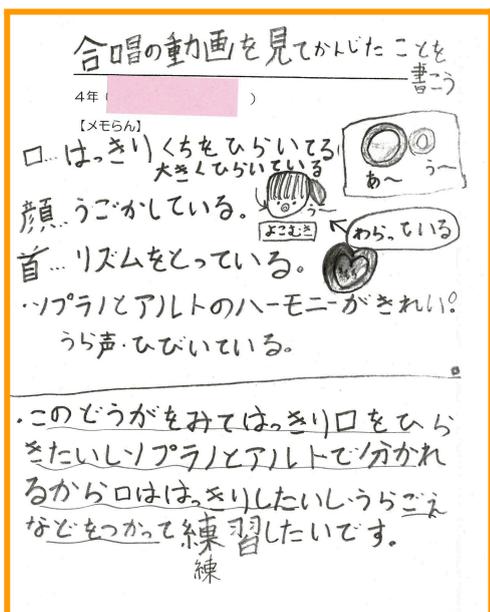
①連合音楽会に向けて準備したこと

連合音楽会は、毎年、市内小学校全11校の4年生がハーモニーホール座間(座間市立市民文化会館)に集まり、学校ごとに合唱を発表する場である。新型コロナウイルス感染症の影響で、令和5年10月4日(水)に、4年ぶりに開催された。

今回、初めて2部合唱に分かれて、人前で歌う経験をした。6月下旬から連合音楽会に向けての練習を始めた子どもたちの様子や、連合音楽会後についてまとめたい。

今回、タケカワユキヒデの「銀河鉄道999」を歌った。4年生の児童は、元気がよく、活動的な児童が多いが、集中を持続させることが苦手で、周囲と合わせて行動することが難しい児童が数名いる。選曲理由として、歌のリズムがよく、自然と身体が動くような音楽であること、メッセージ性(夢に向かってあきらめずにがんばろう)が高いこと、児童の個性に合っていることからこの歌にした。

合唱とはどのようなものかイメージをもたせるために、NHK全国学校音楽コンクールで小学生が合唱している動画を児童に見せ、歌い方に対する気づきや、自分が感じたことをワークシートに書かせた。振り返りでは、口の開き方や表情、気持ちの込め方など歌声以外にも気づきが多く見られ、一生懸命歌う姿に心を動かされた児童が多くいた。次に合唱練習をした際は、口の開き方や表情を意識して歌う児童が増えてきた。



②合唱指導について

7月～9月に4回、洗足学園音楽大学講師の境信博氏に直接、合唱指導をしていただいた。

合唱のポイント(境信博先生より)

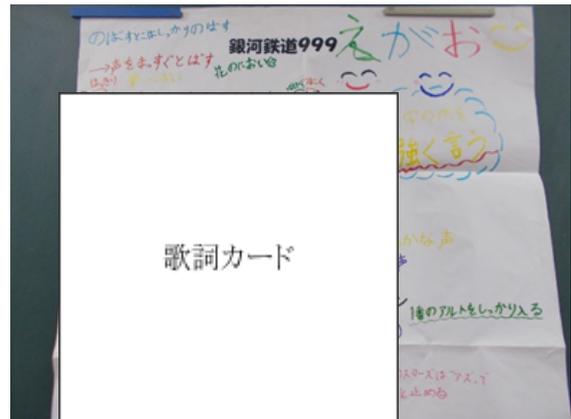
- ・言葉を大切に発音すること
- ・拍をしっかりとること
- ・歌に気持ちを込めること
- ・相手のパートを聴き合うこと



合唱の前にストレッチをしてリラックスしてから歌い始め、発声の仕方、腹式呼吸、身体を動かしながら拍を感じる練習などを行った。練習前後で声が明らかに変化し、「相手の音を意識して聴こえるようになった。」と話す児童も増えてきた。授業参観で、保護者にも合唱指導を見ていただく機会があり、保護者に向かって歌う初めての体験になった。緊張しながらも、聴き手を意識しながら歌うことができるようになった。

③パートリーダー制の活用

各クラスでパートリーダーを募集した。休み時間に境先生から教わったことを拡大楽譜にメモし、毎朝の学年パート練習で、歌い始めのときに気をつけることや意識するところを全体に伝えた。黒板にパートリーダーが書いた拡大楽譜を見て歌うことで、目線が上に上がり、合唱の歌い方を意識して練習するようになった。歌い終わりに、パートリーダーに次回、気をつけることを伝えてもらいたかったが、自分も歌っているため、客観的に伝えることは難しかったようで、その部分は教師が伝えた。



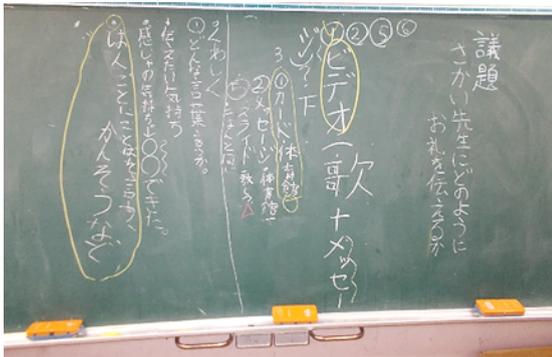
④発表の機会の活用(音楽集会)

連合音楽会の前日に、校内でミニミニ音楽会を行い、連合音楽会で披露する「銀河鉄道999」を全校児童と保護者に向けて発表した。大勢の前で歌うため、歌い始めのときは緊張した面持ちだった児童だったが、力強い歌声にたくさんの拍手をいただいた。他学年の児童から、「鳥肌が立った。みんなの歌がそろっていて、すごかった。」という声や、上級生から「自分たちは連合音楽会に行けなかったから、その分思いっきり歌ってきてほしい。」という声、保護者からの励ましの言葉によって、さらに本番を頑張ろうという気持ちが高まった。

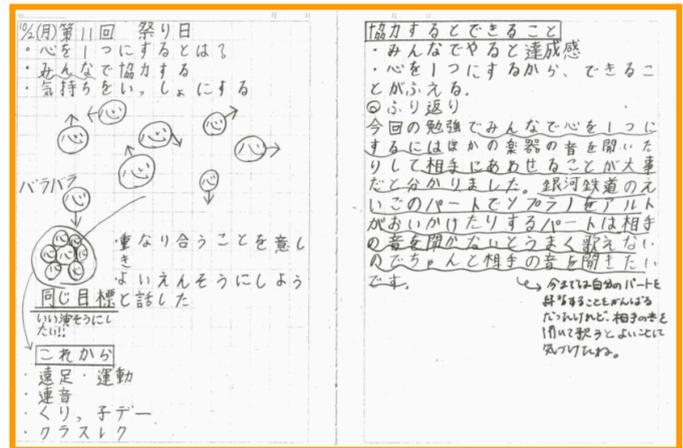
⑤音楽科以外の教科の活用

国語科の「クラスみんなで決めるには」の単元で、合唱指導の境先生に感謝の気持ちを伝えるためにはどのようにしたらよいかを話し合った。その結果、それぞれの意見に対してのメリット、デメリットを話し合い、最終的に自分たちのことを忘れないでいてほしいという思いから、ビデオメッセージを撮影することにした。目的意識をもって行ったので、皆が意見を出しやすく、話し合いが活発に行われた。

道徳の「祭り日」という芸術祭に向けて取り組む題材を取り上げ、心を一つにするためにどのようなことが大切かを考えさせた。連合音楽会に向けて練習している自分たちの姿と主人公の姿を重ね、「相手の音を聞いて合わせることを意識したい。」などと自分事として考えを深めている児童が多かった。他教科との関連して学習を行うことで、より主体的な学びが高まった。



〈国語科 話し合いの内容〉



〈道徳ノート 児童の記述〉

⑥連合音楽会の経験を活かしてその後の活動

連合音楽会でどのように歌いたいかを書く時間を設けた。連合音楽会の練習が始まる6月と、連合音楽会練習中の10月に取った児童の音楽アンケートを比較してみた。

	6月記述(連音練習前)	10月記述(連音練習中)
Aさん	わからない。	銀河鉄道の曲は、前向きな曲なので、「さあゆくんだ」とかをはっきりひびかせるように歌いたいです。
Bさん	みんなで息を合わせる。	銀河鉄道の曲は、聞くと前向きな気持ちになる曲です。理由は曲のはじめに「さあゆくんだ」とあって、前を向いたようなことを想像できるからです。だから、しっかり気持ちを込めて歌いたいです。
Cさん	きれいな声	きれいな声で遠くにひびかせて、元気で前向きな歌ということを10校に伝えていきたい。
Dさん	きれいな声で歌に合っている感じで、みんなが一つになった感じで声を出して歌いたい。	指揮者と伴奏の音やリズムを聞いて歌いたいです。銀河鉄道が走っている感じでなめらかに場面に合わせて歌いたいです。銀河鉄道の曲は勇気や元気をあたえる歌です。だから笑顔で元気な気持ちで歌いたいです。

6月の練習前のアンケートの時点では、漠然ときれいな声や美しい声という言葉が多く見られたが、合唱練習後の10月の記述では、聴いている人にどのような歌のメッセージを届けたいのかを意識して歌い方を書いており、合唱の際に、歌に対する思いをもち、取り組むようになったことがわかる。しかし、アンケート前に歌詞のメッセージを考える学習をしていたので、歌への思いが中心になっており、皆で合わせることへの意識をもう少し高められるとよかった。

⑦連合音楽会の成果

- ・歌詞の意味を考え、歌に対する思いをもって、聴き手に届けようとする意識が生まれた。
 - ・ただリズムにのって歌うのではなく、皆と息を合わせようとする気持ちをもてるようになった。
 - ・振り返りで、「始まる前は緊張したが、歌っているうちに緊張がなくなり、楽しみながら歌うことができた」と答えている児童が多かった。
- ⇒大勢の前で歌うことはとても緊張する体験だが、思いきり歌えたり、みんなで声が重なった気持ちよさを感じることができたりしたから、自信をもって歌うことを楽しめたのではないだろうか。指揮者も伴奏者も歌い手も皆が一つになって、音楽を楽しんでいる様子が聞き手側も感じることもできた。
- ・振り返りで、他校の合唱の良さについて書いている児童も多かった。
- ⇒自分たちが曲に対する思いをもち、練習に取り組んできたからこそ、より他校の発表の良さを感じ取ることができたのだろう。

⑧課題から考える今後指導したいこと

- ・振り返りで、「笑顔で歌うことができた」「緊張せずに楽しめた」のみ答えている児童が数名おり、なぜできたのかをもう少し考えさせるとよかった。
- ⇒皆と合わせることへの意識を持たせたい。
- ・これからの音楽指導にどう生かすかについて書かせた際、「姿勢をよくする、大きな声で口を開ける、笑顔で歌う、腹式呼吸をする」など合唱の形のみ書いていた児童もいた。
- ⇒合唱の基本的なことも大事だが、漠然と「よいから」ではなく、なぜそうするとよいのかも振り返らせると、その良さを意識しながら今後の練習に生かせるのではないだろうか。

2月の授業参観である「10才のありがとうの会」で、保護者の前で「銀河鉄道999」を歌い、3月には、近隣の座間総合高等学校吹奏楽部(以下、座間総合高校吹奏楽部)の演奏に合わせて合唱した。高校生との交流会は、連合音楽会での曲の編曲を座間総合高校の音楽科教諭に依頼したことがきっかけで、行うことになった。

連合音楽会と「10才のありがとうの会」での歌い方の変化や意識したところについて振り返りで書かせた際、「相手が聴き取りやすく(相手に伝わりやすく)するために言葉をはっきり歌う。」や「連合音楽会では、口を大きく開けて笑顔で歌うことしか意識していなかったけど、10才のありがとうの式では、さげばず、きれいな声で歌うことを意識した。」「連合音楽会は、みんなと合わせて歌うからそっちを意識したけど、10才のありがとうの会では、感謝の気持ちを伝える、気持ちを込めて歌った。」などと記述しており、歌のメッセージを伝える相手を意識して歌うようになったことが読み取れる。

座間総合高校吹奏楽部との交流会においては、「吹奏楽部の銀河鉄道999の演奏を聴いたとき、ダイナミックでかっこよかった。強弱がしっかりしていた。」のように演奏のすばらしさを挙げ、「歌いながっている銀河鉄道999だけど、楽器と合わせると、音の大きさに驚き、少し間違えるところもあったけど、それを超えるぐらい楽しかった。」や「楽器と声がかうまく組み合わせるときれいに感じた。」など合唱と演奏とのコラボレーションの良さについて

記述している児童が多かった。中には、演奏がすごく大きな音でびっくりしたけれど、聞きやすいように強弱を意識した。」などと日頃の学習の積み重ねが活かされていることが実感できる振り返りもあった。

児童は、吹奏楽部の演奏に合わせて生き生きとした表情で歌っており、今までの学習の集大成として、音楽を通して、高校生との間に一体感を感じることができ、貴重な時間となった。



Ⅲ 研究授業

音楽科学習指導案

座間市立栗原小学校

指導者 尾方 けい

- | | | |
|-----------|---|--------------------------------|
| 1 日 | 時 | 令和5年11月8日(水) 第5校時(13:30~14:15) |
| 2 学年・組・場所 | | 第4学年2組(36名) 教室 |
| 3 題 材 名 | | 曲に合った歌い方を工夫しよう |
| 教 材 名 | | 共通教材「とんび」(葛原しげる作詞、梁田貞作曲) |
| 4 題材について | | |

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領では以下のように位置づけられている。

【小学校学習指導要領 音楽 2内容】

第3学年及び第4学年の目標

A表現(1)

- ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
 - イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。
 - ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。※今回は、(イ)を中心に扱う。
- (イ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能

[共通事項]

(1)

- ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考えること。

本題材では、歌詞の情景や旋律の流れから、その曲に合った歌い方を考え、表現を工夫して歌う活動を行う。教材として扱う「とんび」は、歌詞の情景やなめらかな旋律から、のびのびとした発声で歌い方を工夫できる曲である。「クレシェンド」や「デクレシェンド」があることによる強弱の効果を考えたり、とんびの鳴き声である「ピンヨロー」の部分をどのように歌うかを考えたりするなど、児童が表現の面白さに気づき、思いや意図をもって工夫して歌うことができると考える。本教材を通して、自分たちで気付いたり、考えたり、試したりしながら、本題材の目標達成に近づけていきたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、令和5年度の5月中旬より制限がない状態での音楽活動を行ってきた。マスクを外しての歌唱活動も行えるようになり、今までできなかった歌唱表現を楽しんで取り組む姿が見られる。また、音楽以外でも運動会や遠足のバス内でのレクリエーション等の行事で、ダンス曲や、既習曲、流行の曲を楽しそうに歌う様子もある。

曲想を捉え、思いや意図をもって表現する活動は、5月「エーデルワイス」、6月「ラバーズ コンチェルト」、9月「連合音楽会 銀河鉄道999」、10月「まきばの朝」、「ゆかいに歩けば」の教材で経験してきた。

音楽の学習に前向きに取り組む児童が多いが、音楽を形づくっている要素の働きに気付いたり、思いや意図を表現に生かしたりすることにはまだ課題が見られる。

以下は6月に行った児童のアンケート結果である。

◆音楽の授業で、みんなで歌うことが好きですか。	
好き	75 % (27名)
まあまあ好き	16.7% (6名)
あまり好きではない・好きではない	8.3% (3名)

90%以上(33名)の児童がみんなで歌うことが好きだと答えている。その理由として、歌うこと自体が好きという児童もいるが、「みんなで歌うことによって、楽しいと感じたり、みんなで声を合わせると、もっときれいな声になってうれしくなるから。」や、「マスクをとって歌えることが増えて楽しい。」と書いており、思いきり歌ったり、みんなと合わせて歌ったりしたいという思いがあることがわかる。

「あまり好きではない」と答えた児童の中には、「歌うときのタイミングがわからない。」や「高い声を出すと、喉が痛くなる。」と記入しており、発声の仕方や声をそろえるタイミングは練習で改善できると考える。

◆「歌を歌うときに、どのような歌い方がよいのか考えて歌っていますか。」	
よく考えている	36.1% (13名)
まあまあ考えている	47.2% (17名)
あまり考えていない	16.7% (6名)

80%近く(30名)の児童が、歌い方について意識していると回答している。しかし、授業で「どのように歌ったらよいか」を質問すると、自分の考えをなかなか伝えられない児童もいる。意識していることをさらに友だちに伝える活動を通して、より歌に対する思いや意図を明確にし、表現を豊かにさせていきたいと考える。

(3) 指導観

児童が思いや意図をもって表現するために、今回3つの手立てを考えた。

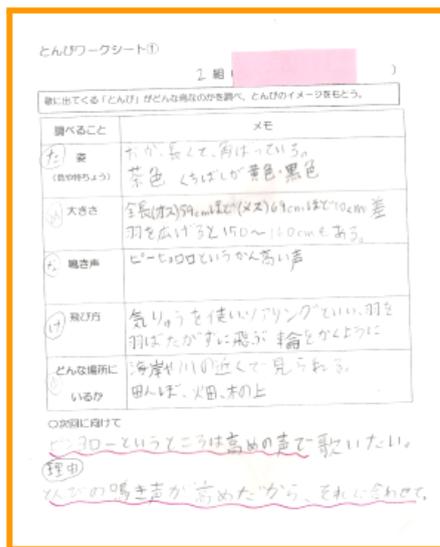
① 課題の明確化

児童が考えるポイントを絞り、焦点化することで、どのように歌いたいか、そのためにどのような工夫が必要なのかを具体的に考えさせ、話し合いができるようにした。今回、研究授業では、もっと曲に合った歌い方をするために、クラスでどんな工夫ができそうかを話し合ったところ、とんびの鳴き声である「ピンヨロー、ピンヨロー」の歌い方や強弱について、児童から工夫ができそうだという意見があり、「ピンヨロー、ピンヨロー」の歌詞、強弱の工夫に焦点化し、考えさせた。

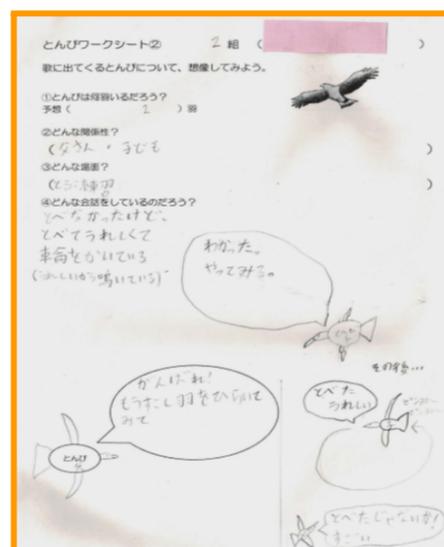
② ワークシートの工夫とペープサートの活用

まずとんびについて知るために、とんびがどのような鳥なのか各グループで学習用端末を活用し、調べ学習を行った。調べてわかったことから、とんびを歌う際にどのようなイメージで歌いたいかを考えさせた。

その後、とんびの歌が「呼びかけ と こたえ」になっていることに気づかせるために、どのような場面を表しているのか、また、どんな会話になっているのかを想像し、表現できるよう、吹き出しが書いてあるワークシートを用意した。それをもとに、グループで、「ピンヨロー」の歌い方を話し合った。話し合う際は、とんびがどのように飛んでいるのかがわかるように、各グループにとんびのペープサートを用意し、歌の工夫に合わせてペープサートを動かし、表したい場面のイメージをもてるようにさせた。



〈調べ学習ワークシート〉



〈吹き出しワークシート〉

③ 児童の感じたことや表現の工夫を共有する場をつくる。

自分の気づきや考えたことを、グループで話し合う活動を通して、曲に対する思いをもちやすくし、表現の工夫に生かせるようにした。それぞれの思いや意図によって表現の仕方が異なることに気づかせ、聴き合ったりする協働的な学びを通して、児童が主体的に歌唱活動に取り組み、互いの表現の良さや違いを認め合えるようにした。

5 題材の目標

- ・曲想と旋律などの音楽の構造や、曲想と歌詞の内容との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付ける。

[知識及び技能] A イ・ウ

- ・旋律、強弱、反復、フレーズ、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。[思考力、判断力、表現力] A ア(共通事項)(1)ア
- ・曲想を生かして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む。[学びに向かう力、人間性等]

6 題材の評価規準

評価の観点	評価規準
知識・技能	<p>知 曲想と旋律などの音楽の構造や、曲想と歌詞の内容との関わりについて気付いている。A イ</p> <p>技 思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸や発音の仕方に気をつけ、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。ウ(イ)</p>
思考・判断・表現	<p>○ 旋律、強弱、反復、フレーズ、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>A ア (共通事項)(1)ア</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>○ 曲想を生かして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。</p>

7 題材の指導・評価計画(7時間扱い)

【○】記録に残す評価 【・】指導に生かす評価

次	時	ねらい	○学習活動 ◆指導上の留意点	知 技	思	態	評価規準
1	1	<p>○「ゆかいに歩けば」の旋律の特徴を聴き取る。</p> <p>○スタッカートがあることによって、弾む楽しい感じの歌になることに気付く。</p>	<p>○気付いたことや感じたことについて話し合い、旋律の特徴をまとめる。</p> <p>◆歩きながら歌って、曲想をつかませる。</p>	・			<p>知 曲想と旋律の特徴の関わりについて気付いている。(観察・ワークシート)</p>

	2	○「ゆかいに歩けば」の旋律の特徴を生かしてどのように歌うのかを考える。	○グループで表現を工夫し、歌って試す。 ○ふさわしい歌い方を考え、表現の工夫をまとめる。 ◆スタッカートとレガートを意識した表現を工夫できるよう促す。	○		○ [思] [ア]と[イ]の旋律の特徴の違いを感じ取りながら、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (観察・ワークシート)
	3	○下のパート(低音部)の練習をし、曲想を生かして二部合唱をする。	○二部合唱をする。 ◆二部合唱の際、互いの音を聴き合い、響かせて歌えるように声をかける。	○		[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸や発音の仕方について気をつけ、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱の聴取)
2	4	○「とんび」のイメージを持たせ、どのように歌うか思いをもつ。	○学習用端末を用い、とんびとはどのような鳥なのかを調べ、クラスで共有する。 【どんな姿、鳴き声、飛び方、大きさ、生息地】		・	[思] とんびについて興味をもって調べ、歌い方に生かそうとしている。 (観察・ワークシート)
	5	○旋律の音の動きを確認しながら歌い、旋律の特徴に気付く。	○旋律の動きを意識して歌う。 ◆拡大楽譜に旋律線を書き込み、視覚的に捉えられるようにする。 ◆旋律の流れと歌詞との関わりについて気付かせる。 ◆クレシェンド、デクレシェンドの意味を知り、効果について考えさせる。	○		[知] とんびの曲想と音楽の構造、歌詞の内容との関わりについて気付いている。 (発言・歌唱の聴取)

6 本時	○「ピンヨロー」の旋律をどのように歌うかについての思いやイメージをもたせる。	○「ピンヨロー」の旋律をどのように歌うかを考え、表現を工夫する。 ◆とんびがどんな様子で鳴いているのかを想像し、強弱などの工夫を各グループで話し合わせる。		○	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">思</div> 思い浮かべたとんびの様子に合うように表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (観察・ワークシート)
7	○それぞれの強弱の工夫を全員で歌い、表現の工夫のよさや面白さを感じ取る。	○とんびの歌い方をまとめる。 ◆「ゆかいに歩けば」と「とんび」の歌い方を比べ、曲想によって歌い方が異なることに気付かせる。		○	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">態</div> これまでの学習を振り返り、曲想の違いを生かして表現することのよさや面白さを感じ、次の歌唱の活動に生かそうとしている。 (観察・ワークシート)

8 本時の指導(6/7)

(1) 目標

思い浮かべたとんびの様子に合うように表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組む。

(2) 実現状況を判断する際の具体的な子どもの姿と、目標実現を目指すための手だて

	十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	努力を要する(C)と判断した児童への具体的な手だて
思考 ・ 判断 ・ 表現	思い浮かべたとんびの様子に合うように表現を工夫し、どのように歌うかについて、グループでの話合いを通して、思いや意図を深めている。	思い浮かべたとんびの様子に合うように表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	とんびのペープサートを用い、とんびの飛んでいる様子や歌詞にある呼びかけとこたえの関係をイメージしやすくさせる。

(3)展開

	学習活動	指導上の留意点	評価(観点・場面・方法)
はじめ	<p>①とんびを歌う。</p> <p>②歌を振り返り、自分たちの歌い方が曲に合った歌い方だったかどうかを振り返る。</p> <p>③学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ピンヨロ～、ピンヨロ～の歌い方を考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が録音し、振り返りがしやすいようにする。 ・3段目の鳴き声に注目させる。 	
なか	<p>④歌に出てくるとんびは何羽いるか、前時に考えたことを発表する。 (2羽～4羽、たくさん)</p> <p>⑤とんびがどのような関係性でどんな会話をしているのかを発表する。</p> <p>⑥グループで、イメージされるとんびの様子を出し合い、「ピンヨロー」の歌い方や強さを考え、練習する。</p> <p>・各グループでどんな会話を考えたのか、どのように歌うかを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜそう考えたのか理由を発表させる。 ・鳴き声かとんびの会話になっていることを確認する。(呼びかけとこたえ) ・各グループで楽譜に歌い方を書きこませる。(強弱、発声の仕方など) ・強弱や速度の違いなど様々な表現方法を試させることで、歌唱表現を工夫する楽しさを味わわせ、思いや意図が深まるようにする。 ・友だちの発表を聴いて、よかったところを伝え合う。 	<p>(手だて)</p> <p>思 とんびのペープサートを用い、とんびの飛んでいる様子や歌詞にある呼びかけとこたえの関係をイメージやすくさせる。</p> <p>思 思い浮かべたとんびの様子に合うように表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (観察・ワークシート)</p>
まとめ	<p>⑧活動を振り返る。</p> <p>・ワークシートに今日の活動の振り返りを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のグループでの活動や友だちの発表を通して、歌い方について考えたことを書くよう声をかける。 ・振り返りの書き方の型を大型テレビに映し、振り返りが書けるようにする。 	

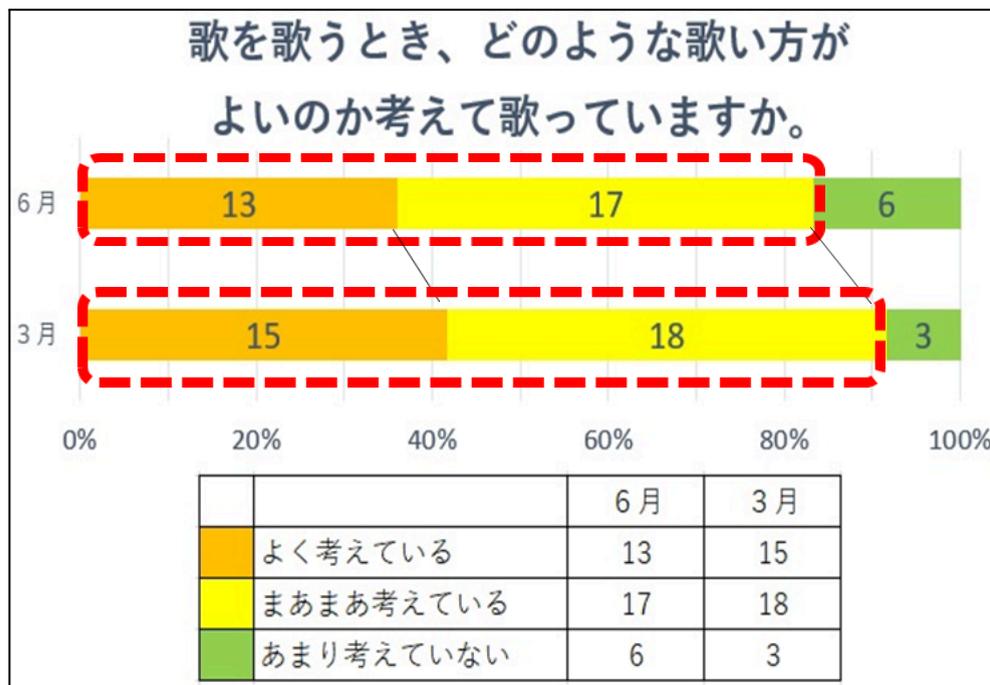
6月と3月に実施した児童アンケートで、「歌を歌うとき、どのような歌い方がよいのか考えて歌っていますか。」との質問に対し、

【6月】

よく考えている…13名、まあまあ考えている…17名、あまり考えていない…6名

【3月】

よく考えている…15名、まあまあ考えている…18名、あまり考えていない…3名



6月アンケートでは、80%近く(30名)の児童が、歌い方について意識していると回答していたが、3月アンケートでは、90%以上(33名)の児童が歌い方について、考えながら歌っているとの回答が多くなった。「どんなことを意識して、歌っていますか。」との質問に対し、連合音楽会以降、姿勢や口の形、表情など合唱の基本的なことだけでなく、曲に合った歌い方を考え、リズムや強弱、音色など音楽を形づくっている要素を意識して歌っていることがわかる。自分の考えを伝え合ったり、自分たちの歌声を振り返ったりすることで、考えをもつことが苦手な児童も歌に対する思いをもつことができた。

「どんなことを意識して、歌っていますか。」(3月アンケート)※複数回答可

アンケート結果

〈合唱の基本的なことについて〉

姿勢…5、大きな口…8、はっきり歌う…1、腹式呼吸…6、裏声…3、

表情、笑顔…6

(笑顔で歌うと、見ていたり、聴いていたりする相手も笑顔になれると思うから。笑顔を意識すると、自然と口も大きく開いて声が出るから。)

〈曲想に合った歌い方〉

・曲想に合わせて歌い方を変える。…5

その曲がどんなイメージか明るい、さびしい、勇ましいなど、その曲に合った歌い方や音程、伸ばすところなど細かい所も気を付けている。…1

・気持ちを込めて…1

〈音楽を形づくっている要素に関係するもの〉

音色(きれいな声)…1、リズム…6、速度…2、強弱…1

音の伸ばし…1、休符…2、音程(音の高さ)…6、タイミング…1

〈音を聞くこと〉

・周りの人に合わせる…2、相手のパートを聞く…2、楽器の音…1

(その他)先生や友だちの意見を意識…1、不明…1

(2) みんなで歌う活動を通して、自分の歌に対する振り返りができた。

児童アンケートで、「音楽の授業で、みんなで歌うことは好きですか。」との質問に対し、【好き】【まあまあ好き】と答えた児童は、6月アンケートでは、歌うこと自体が好きだと答えている児童が多かったが、3月のアンケートでは、「みんなの声が重なってきれいな声になってうれしくなるから。気持ちがいいから。」「アルトとソプラノがハモったり、みんなで練習してきたことで、できたときはうれしいから。」などのみんなで歌ったときの気持ちよさや達成感について記述している児童が増えた。しかし、【あまり好きではない】と答えた児童は、「みんなのペースに合わせるのが難しいから」や「あまり声が出ないから」と記述しており、その点について支援が必要だが、自分の歌い方についての振り返りをしていることがわかる。

(3) 多様な友だちの考えを学び、さらに 学びが深まった。

「とんび」の実践では、歌詞の「ピンヨロー」のフレーズから、歌の情景を想像して、歌い方の工夫を考えた。各グループでの発表の際は、自分たちにはない考えに自然と拍手が起き、「〇班の工夫をみんなで歌いたい。」「それぞれの班の個性があり、面白かったので、もっと続きを考えたい。」と感想があった。後日、工夫した表現を意識してとんびを歌唱した様子を録画した。皆で動画を見たところ、音色や強弱がばらばらになっていたことに児童が気付いた。そこで、皆で何を表現したいかを一致させ、音色や強弱をそろえた方がよいのではと考えが出たので、その後、1つの班を選び、表現したいことと工夫を全体で意識し、歌ってみた。すると、声が重なり、自分たちが考えていた表現ができた実感したようだった。このように、多様な友だちの考えを通して、さらに皆で表現するためにはどのようなことが大切なのかを児童が考え、試行錯誤する中で考えを深めることができた。

とんびの飛ぶようすを表現するために、
おうえんやようこびをとり下がり最後に
飛ぶたようこびを子で工夫しました。

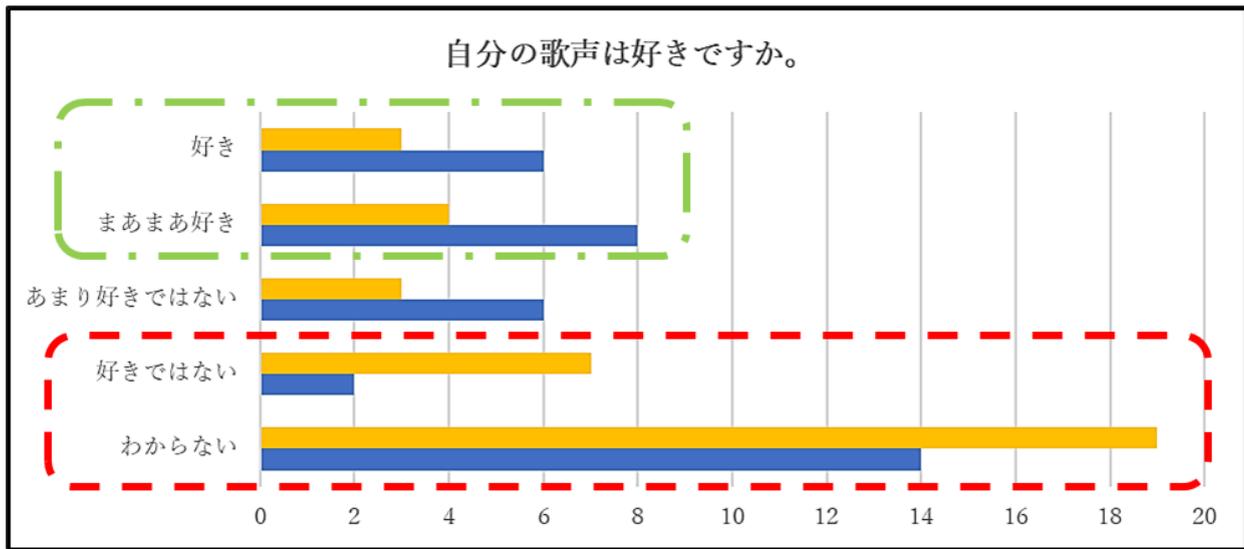
他の班では、いいと思、た班は6班です。
6班は、強弱きこうで2人の役を表す工夫
がとていいと思、そして自分た
ちでや、てみて色々なやり方あって、こ

よびかけとこたえ

①自分たちのやり方もけ、こう良
か、たけど一つの考だけにしばら
れるんじ、なくて色々な考を聞く
ことはとても大切なことだと音楽
で気がなされました。なのでこれ
からは、とんびを歌うときは色々
な班のことを思いだしながら歌
ていきたいです。

(4) 自分の歌声を好きだと思う児童が増えた。

「自分の歌声が好きですか。」という質問に対し、「好き」「まあまあ好き」と答えた児童が6月では、19.4%だったのに対し、3月には、40%に増加した。6月は、「大きな声が出るから。」や「高い音が歌えるから。」などももとのもっている声質から答えている児童がいたが、3月では、「最初よりたくさん練習してうまくなったから。」や「裏声で歌うときれいな声が出るから。」、「自分にしかない特別な楽器だから。」「高音を長時間響かせることができなけれど、自分の声がきれいだと思って好き。」などと練習したことで、上手になったり、きれいな声で歌えたという達成感を感じたりできたことが要因としてあるのではないかと考える。ただし、【あまり好きではない】【好きではない】、【わからない】と答えている児童もいるので、その点については課題のところで分析したい。



2 課題

(1) 自分の歌声について「好きではない」や「わからない」と答える児童が一定数いた。

今回、学習用端末で全体での歌声の録画、個人での録音を行った。全体の録画は、全体としての歌い方がわかりやすい反面、個人の声はわからない。個人での録音は、個人の音が入る分、周りの音も入ってしまったり、一斉に録音した声を聴いたりしたので、わかりづらかった。個人用のイヤフォンの使用や、時間をずらしての録画や録音を聴くなどの対応をすると、よかったのではないかと感じた。そうすることで、自分の声が表現したいことに近づけているか振り返り、次の活動に生かすことで、自信をもって活動に取り組める児童が増えてくるのではないかと考える。

(2) 自分の歌声を認められる経験が少なかった。

児童のアンケートを見ると、音楽が好きで、歌うことが好きな児童は、自宅やカラオケなど音楽の授業以外でも音楽に触れる機会が多いと感じた。一方、苦手に感じる児童の中には、コロナ禍の期間も影響しているのか、「歌を歌うことがあまりないから。」やそもそも「自分の歌声に興味がない。」と答えている児童がいた。歌い方を考える際には、思い描く歌い方ができるよう技術が必要であり、この歌い方がよいという規準も、ある程度共通理解が必要になってくる。声遊びでペアワーク、歌い方を考える学習でグループ活動を行ったが、ペアワークやグループ活動の中で、友だちのよいところを認め、伝え合う活動を増やしていくと、自分の取り組みや声について自信をもつことができるのではないだろうか。ただし、伝え合う際は、前提として自分を表現しやすい温かな雰囲気や、友だちの取り組みに対し、否定しないなどの環境を整える土台づくりも大切だと考える。

(3) 歌唱に対する思いがあっても表現に至らない児童がいた。

歌唱に対する思いはあるものの、文章表現が苦手な児童がおり、なかなか思いをくみ取れない児童もいた。文章表現ではなく、身体で表現することが得意であったり、絵で描いた方がよかったりする児童もいるので、多様な表現方法を認め、それを教師が見取る力と、自分の思いが表現できるような文章の書き方の指導も必要だと感じた。児童の課題に対して、適切なアドバイスができるよう様々な指導の手立てを持っておかなければならない。

V まとめ

今回の経験から、歌唱表現をする際、どのように歌うかを意識して歌う児童が増え、思いをもって取り組むことができていた。練習したことで、4年生なりに自分の歌声を受け止め、様々な歌い方ができるようになると、みんなで表現することが楽しくなり、自己肯定感につながっていると感じた。

3月に、座間総合高校吹奏楽部と交流をした際に、自主勉強ノートに振り返りを書いてきた児童がいた。普段は自分の考えを話したり、書いたりすることが苦手な児童が、「吹奏楽部の演奏に負けないように、声を出すことをがんばりました。」や、連合音楽会後の振り返りでは、自分の振り返りをほとんど書けなかった児童が、ノートいっぱい、各楽器の役割や音楽のすばらしさについて書いていた。音楽を通して、自分の行動や気持ちを変容させるきっかけになり、このような経験の積み重ねがこれからの自信になっていくと考えた。

令和5年8月の音楽教育推進協議会の研修を受けた際、音楽科におけるAIと人間との違いについての話があった。AIは、正確にミスなく演奏をすることができると言われている。人間は、考えを生み出す力があり、多少のミスやアレンジは人間ならではの良さであり、強みなのだという話を伺い、人が生み出す音色やハーモニー、考えは誇りに思えるところだと、連合音楽会や高校生との交流会を通して、改めて感じた。

現在は、動画サイトで身近に音楽を楽しめるようになったが、みんなで歌うことの高さや楽しさは、実体験で得るものが大きい。連合音楽会で大ホールで歌う経験や、楽器の演奏に合わせて合唱する経験は、児童が心を震わせ、感動を味わうことができた。その体験が、音楽科の目標である「音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。」ことにつながるのではないだろうか。だから、学校で様々な音楽と出会い、出

会った音楽の世界が広がっていくようにしていきたいと思う。そのためには、教師自身が音楽を楽しみ、様々な指導の手立てをもち、それぞれの児童に合った方法を一緒に考え、課題が解決できるよう学び続けていくことが大切だと考える。

VI 引用・参考文献

- 高倉弘光。「高倉弘光の音楽授業 必ず身に付けたいテッパン指導スキル55」。明治図書，2020，134p.
- 中島寿・高倉弘光・平野次郎。「音楽の授業で大切なこと～なぜ学ぶのか？ 何を、どのように学ぶのか？」。東洋館出版，2019，179p.
- 熊木眞見子・笠原荘史。「音楽科授業サポートBOOKS 発声練習より効果てきめん！恥ずかしがらずに声を出せるようになる「声遊び」のアイデア&授業レシピ」。明治図書，2022，127p.
- 増田謙太郎。「音楽科授業サポートBOOKS 「音楽」のユニバーサルデザイン 授業づくりをチェンジする15のポイント」。明治図書，2019，141p.
- 今村行道・津田正之，「新学習指導要領対応小学校音楽イチ押し授業モデル 中学年」。明治図書，2020，141p.
- 坂本かおる。「[音楽指導ブック]お悩みポイントと撃退！ かおるせんせの合唱塾」。音楽之友社，2015，95p.

月	単元名	時数	時	小単元のめあて
4	にっぽんのうた みんなのうた	2	1	情景を思い浮かべながら、歌詞や旋律に合った歌い方で歌う。
			2	箏による演奏を聴き、音色に親しむ。
4	歌声ひびかせて	4	1	パートごとの旋律の動きをとらえ、互いの旋律を聴き合いながら歌う。
			2	パートごとの旋律の動きをとらえ、互いの旋律を聴き合いながら歌う。
			3	ミュージカルについて知り、歌声や表現を味わい、その音楽を楽しむ。
			4	ミュージカルについて知り、歌声や表現を味わい、その音楽を楽しむ。
5 6	ひょうしと せんりつ	8	1	拍の流れや旋律の感じを生かして歌ったり演奏したりする。
			2	拍の流れや旋律の感じを生かして歌ったり演奏したりする。
			3	行進曲について知り、そのリズムや2拍子の流れを感じながら聴く。
			4	行進曲について知り、そのリズムや2拍子の流れを感じながら聴く。
			5	拍子の違いを感じ取り、拍の流れにのって歌う。
			6	拍子の違いを感じ取り、拍の流れにのって歌う。
			7	拍子の違いを感じ取り、拍の流れにのって歌う。
			8	拍子の違いを感じ取り、拍の流れにのって歌う。
6	〈音のスケッチ〉	3	1	音の動き方やフレーズのつなげ方を工夫して、旋律づくりを楽しむ。
			2	音の動き方やフレーズのつなげ方を工夫して、旋律づくりを楽しむ。
			3	音の動き方やフレーズのつなげ方を工夫して、旋律づくりを楽しむ。
7	にっぽんのうた みんなのうた	3	1	情景を理解し、旋律の流れを生かしながら曲想に合った歌い方を工夫する。
			2	情景を理解し、旋律の流れを生かしながら曲想に合った歌い方を工夫する。
			3	情景を理解し、旋律の流れを生かしながら曲想に合った歌い方を工夫する。
7	曲に合った歌い方	3	1	曲想をつかみ、旋律の動きに合った歌い方を理解し工夫する。
			2	曲想をつかみ、旋律の動きに合った歌い方を理解し工夫する。
			3	旋律の流れを意識し、情景を思い浮かべながら表現を工夫して歌う。
9	かけ合いと重なり	2	1	楽器の呼びかけ合いや音の重なりに気づき、曲の仕組みや特徴を理解して聴く。
			2	楽器の呼びかけ合いや音の重なりに気づき、曲の仕組みや特徴を理解して聴く。
9	〈音のスケッチ〉	3	1	全体の構成や各声部の役割について考えながら、役割を生かした音楽づくりを楽しむ。
			2	全体の構成や各声部の役割について考えながら、役割を生かした音楽づくりを楽しむ。
			3	全体の構成や各声部の役割について考えながら、役割を生かした音楽づくりを楽しむ。
10	曲に合った歌い方	7	1	曲想をつかみ、旋律の動きに合った歌い方を理解し工夫する。
			2	曲想をつかみ、旋律の動きに合った歌い方を理解し工夫する。
			3	旋律の流れを意識し、情景を思い浮かべながら表現を工夫して歌う。
			4	旋律の流れを意識し、情景を思い浮かべながら表現を工夫して歌う。
			5	旋律の流れを意識し、情景を思い浮かべながら表現を工夫して歌う。
			6	旋律の流れを意識し、情景を思い浮かべながら表現を工夫して歌う。
			7	旋律の流れを意識し、情景を思い浮かべながら表現を工夫して歌う。
11	にっぽんのうた みんなのうた	4	1	旋律の関わりや重なり、声の響き合いを感じ取って歌う。
			2	旋律の関わりや重なり、声の響き合いを感じ取って歌う。
			3	旋律の関わりや重なり、声の響き合いを感じ取って歌う。
			4	旋律の関わりや重なり、声の響き合いを感じ取って歌う。

11	〈音のスケッチ〉	3	1	音階による旋律の雰囲気の違いを感じ取りながら、旋律づくりを楽しむ。
			2	音階による旋律の雰囲気の違いを感じ取りながら、旋律づくりを楽しむ。
			3	音階による旋律の雰囲気の違いを感じ取りながら、旋律づくりを楽しむ。
12	アンサンブルの楽しさ	3	1	旋律の特徴や曲想をつかみ、パートの役割を生かして演奏する。
			2	旋律の特徴や曲想をつかみ、パートの役割を生かして演奏する。
			3	旋律の特徴や曲想をつかみ、パートの役割を生かして演奏する。
1	音楽今昔	6	1	歌の旋律や曲想をとらえ、リズムや歌い方を工夫して歌う。
			2	歌の旋律や曲想をとらえ、リズムや歌い方を工夫して歌う。
			3	我が国の郷土に伝わる祭り囃子に親しむ。
			4	諸外国に伝わる音楽のいろいろなリズムや歌に親しむ。
			5	サンバのリズムや旋律の特徴を感じ取り、拍にのって楽しく演奏する。
			6	サンバのリズムや旋律の特徴を感じ取り、拍にのって楽しく演奏する。
2	[いろいろな歌声を楽しもう]	2	1	場面と音楽の特徴を確認しながら、歌劇の音楽の魅力を感じ取る。
			2	場面と音楽の特徴を確認しながら、歌劇の音楽の魅力を感じ取る。
2	校歌・君が代	2	1	校歌や国歌の大切さを理解し、親しみをもつ。
			2	校歌や国歌の大切さを理解し、親しみをもつ。
3	ききどころを見つけて	3	1	音楽を形づくっている要素を確かめながら、全体を味わって聴く。
			2	音楽を形づくっている要素を確かめながら、全体を味わって聴く。
			3	音楽を形づくっている要素を確かめながら、全体を味わって聴く。
3	わたしたちの表げん	2	1	互いの声や音、その重なりを聴き、曲想をとらえて表現を工夫する。
			2	互いの声や音、その重なりを聴き、曲想をとらえて表現を工夫する。
	合計時数	60		